

# 令和7年度第2回長岡京市部活動地域展開検討委員会

## 1 日 時

令和7年10月22日（水）午後5時55分～7時15分

## 2 場 所

長岡京市役所 新庁舎 会議室401

## 3 出席者（順不同、敬称略）

委 員 中村 和雄、大島 嘉人、三古 剛、小國 俊之、森 昌彦、田中 進  
小山 慎也

欠席委員 なし

事務局 教育長 西村 文則、教育部長 中島 早苗  
教育部次長兼文化・スポーツ振興課長 宮崎 隆弘、  
学校教育課長 渡邊 まどか、  
学校教育課総括指導主事 阿部 隆、学校教育課指導主事 安池 美希子、  
学校教育課学校教育指導主事 縄手 健也、  
スポーツ振興係長 鈴木 忠範、文化振興係長 木村 映美、  
スポーツ振興係主事 江森 仁耶

傍聴者 なし

## 4 内 容

### 1 開会

(1) あいさつ

### 2 協議事項

(1) 学校部活動から「地域クラブ活動」へ

(2) 試行的取組みについて

(3) 今後について

### 3 その他

### 4 閉会

## 5 議事等の内容

### 1 会長あいさつ

### 2 協議事項

#### 1 協議事項

①、②について

事務局より説明。

委員：展開先の候補はどこが予想されるのか。

事務局：スポーツ協会からスポーツ団体やスポーツ少年団から呼び掛けていき、それを皮切りに広げていきたい。

委員：各校で地域展開をイメージしているのか、複数校での地域展開なのか

事務局：今のところは決まったイメージはなく、学校側の意向を聞いて試行的取組みに前向きなところとマッチングしていきたい。

委員：今まで学校教育として行ってきたので、学校間の差があると心配である。

委員：学校の意向を踏まえて導入を検討しているが、令和13年度以降もこの形なのか。強制的に導入するのか。

事務局：今のところは試行的取組みについては意向が最優先、最終的にはルール化しないといけないと思っている。

委員：懸念することとして、生徒が人間関係を形成していくのに重要である、生徒と教員の信頼関係が切り離されると別の問題が出てくるのではないのか。先生の意向で休日でも自由に参加できるような体制は必要なのではないか。

事務局：先生の兼職兼業という形で参加する仕組みは作っておいて、先生が土日でもできるようにしたい。先生の機会を奪うことは考えていない。

委員：2ページで自治体が実施する研修を受講とあるが、全員が受講することや、緊急の場合を考えても現実的なのか。

事務局：全員は難しいかもしれないが、誰でもいいというわけではなく、最低限の安全は確保をすることは押さえてくださいというメッセージを「研修」という形にした。

委員：研修を受けて資格を持った人が主として動いていく形になっていくと思う。

委員：何を基準に資格を出されるのか、条件が厳しいと人が集まらないと思う。競技によっても、指導スタイルが違うので、競技によっては経費が出ないのに基準だけ作られてもできない。

委員：休日の指導に対する現場の先生の熱量はどういう感じなのか。

委員：やりたい人としぶしぶな人と二極化されている。やりたい人はだんだん減っていくと思う。休日に地域に預けるのであれば、平日は勤務時間なので見るというのはある。まったく見たくないという人もいる。もっとやりたいという人もいて、すでに3つに分かれている。ルールが厳しくなって、やりたいことができないからやらない先生もいる。

委員：違う話題だが先ほどの資格について、サッカーの場合は資格の中に人間性が入っていない。子どもに関わることなのでそこが一番の問題と思う。

委員：子どもたちが生き生きと活動するためには指導者との関係は良きものでないといけない。

委員：専門でない部活の顧問になった人は専門的な指導はできない。ただ、今ならオンラインで情報は入るため、大きなモニターみたいな、そういうものに市として経費を使う意思はあるのか。個人的には基本は先生に見てもらい、足りない部分を我々が協力したい。どうしても経費はかかるので、市が経費を出さないと何をやっても期待できない。

事務局：試行的取組の際に、いろいろなパターンの話を聞いて見つけていきたい。

委員：受ける側も預ける側も課題が多い。受ける側が責任をもつことができるのか。責任が受け手にしかいかないのであれば、受け手をやりたい人はいないと思う。

委員：特にハラスメントは受け取る側の感性に依存するので難しい。企業のようなマニュアルが必要と思う。

委員：小学生の指導は、まだ素直に信頼関係ができるが、中学生は、多感な時期なので、地域の受け手が適切な受け入れをするためのマニュアルもしっかり作ってほしい。令和13年度に完全に移行というのは、学校では一切やらないと捉えていいのか。

事務局：目指すところはそうだが、地域の人だけでなく先生が参加できるようにもしたい。

委員：可能な限り顧問の先生が関わられるようにしてもらいたい。

委員：8 ページの指導者派遣は1つの中学校に対してなのか。

事務局：合同でやっているところなどに、いくつかの形がある。

委員：吹奏楽に関しては4校に派遣している。同じ人間が同時に複数校にはいけないので、複数で指導となったら最低でも4人必要。同じ種目だと日程も同じなので複数人揃えないと指導できない。学校単位で移行しても種目によっては厳しい。統一した考え方がないと4つの中学校どころかもっとバラバラになってしまう。

委員：学校やクラブによって人数が全然違うので、地域が提供できるものも色々ある。今は漠然としか捉えられないので具体的にしていけるアイデアはお持ちなのか。

事務局：令和13年度までの間をどう過ごすかが課題。たくさんの要素からどれを選ぶかという話になる。まず、学校の意向を吸い上げて、それができる形で地域へ展開できるような道を見つけないか。キャッチボールをしていきながら方針を固めていきたい。

委員：令和13年度がゴールという形になっているので、そこに向かって一歩踏み出すために各学校で何ができるのか。学校によってクラブの人数に差がある。長岡京はまだ子どもの数は多いが、将来的に継続していくために、長岡京独自でできることをやっていくのが大事と思う。その方法について意見をもらいながら進めていきたい。

### ③ 今後について

#### 事務局より説明

委員：学校の教師は転勤がある、自治体（勤務先）が変わる。種目も変わる。色々なニーズがある。違う市から本市に来ることは可能なのか。

委員：異動は4月までわからないので、そこからスケジュールの問題がある。だからこそ方針を決めて、選択肢を増やしていく必要があると思う。

委員：今でも他市からの指導者もいる。それも受け皿になると思う。

事務局：教員の指導は勤務先に限られない。教員の思いを認めていきたい。ただ、試行段階で手を離されると展開できないので、繋ぐ役割をお願いしたい。

委員：現在のスタートとしては、そこにあるものをいかに継続させるかでスター

トしているが、だんだんと変化していく形になっていくと思う。

委員：「推進協議会」はどうか。長岡京市が柱にしてきたバドミントンや吹奏楽はどうするのか。

事務局：「推進協議会」を蔑ろにするつもりはない。先生方がどういう形で落ち着くのか協議していきたい。

委員：市として力を入れてきたものはどうするのか問題提起をいただいたので、これについても今後協議を進めてきたい。

委員：今の中学校の部活動はアンケートに載っているものだけなのか。地学部とか生物部はなくなっているのか。

事務局：現在の部活動は記載されているもののみである。昔は生徒も教員も多かったが、子どもの数が減るにつれて部活動も減っていった。

事務局よりアンケートについて説明

委員：部活にない種目をしたい子どもも多い。子どもの意向を大事にしたい。どうしても担い手不足が課題、マッチングしないのが大きな問題と思う。小学生にバドミントンを教えているが、中学は地域クラブと違う世界に行かざるを得ない状況をなんとかしないといけない。マッチングのさせ方を先に作った方がいい。土日部活動をしなくなった分を子どもたちは何をしていたのか知りたい。

事務局：今は部活にないものも地域展開していきたい。先行的にやっているところで毎回違う種目をやっている地域は子どもから人気あるので、そんな方法もあるのではないかな。

委員：子どものニーズに応じた形で子どもが色んな分野を楽しめるような形でアンケートを活用していきたい。

委員：小さい子からご年配まで楽しめるような方法を考えてもらったらと思う。

#### 4 その他

事務局より説明

#### 5 閉会